

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	宇和島市立明倫小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	4	4	3	4	26	40
児童数	101	131	107	127	130	112	8	716	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本を確実に身に付け、学ぶ楽しさや充実感を味わう児童の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年・算数 <p>児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、本校の児童の実態として、算数科における基礎・基本が十分には身に付いていないと考えられるため</p>
--

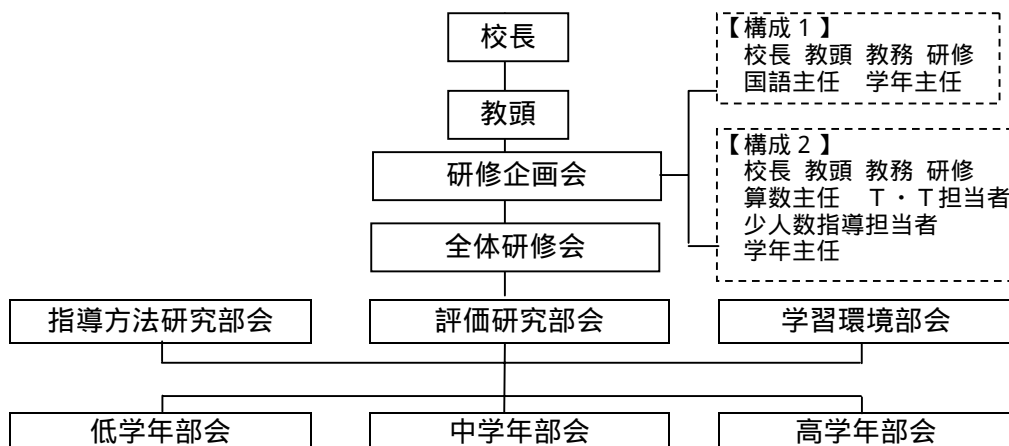
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>1 テーマ</p> <p>算数科を中心に、指導と評価の一体化による個に応じたきめ細かな指導法の研究を通して、基礎・基本を確実に身に付け、学ぶ楽しさや充実感を味わう児童の育成を図る。</p> <p>2 研究の見通し（仮説）</p> <p>(1) 個に応じた指導法や指導体制の工夫改善を行うことにより分かる授業展開を行えば、児童は学ぶ楽しさを味わい、自ら進んで学習することができるであろう。</p> <p>(2) 評価について研究を進め、一人一人に適切な指導を行えば、児童は基礎・基本が定着し、意欲的に学習に取り組むことができるであろう。</p> <p>(3) 家庭と連携して学びの機会や学習環境を充実していけば、学習意欲を高め、自ら学ぶ姿勢を育むことができるであろう。</p> <p>3 研究の内容・方法</p> <p>(1) 指導方法研究会</p> <p>ア 学びの習慣化や学びの意欲化への取組</p> <p>イ 個に応じた指導体制や指導方法の工夫改善</p> <p>ウ 数学的に考える力を育てる指導の工夫</p> <p>(2) 評価研究会</p> <p>ア 評価のねらいの明確化</p> <p>イ 単元指導計画・判定基準の作成による指導法の改善</p> <p>ウ 自己評価の蓄積・考察による指導法の改善</p> <p>エ 個人記録の蓄積・考察による指導法の改善</p>
--------	--

平成 15 年 度	(3) 学習環境部会
	ア 自主的な学びの場の工夫
	イ 学ぶ楽しさを味わうことのできる場の工夫
	ウ 家庭・地域との連携
	エ 職員の意識統一

平成 16 年 度	1 テーマ 算数科を中心に、指導と評価の一体化による個に応じたきめ細かな指導法の研究を通して、基礎・基本を確実に身に付け、学ぶ楽しさや充実感を味わう児童の育成を図る。
	2 研究の内容・方法
	(1) 指導方法研究部会
	ア 個に応じた指導体制や指導方法の工夫改善
	イ 数学的に考える力を育てる指導の工夫
	ウ 発展的な学習・補足的な学習の研究
	(2) 評価研究部会
	ア 単元指導計画・判定基準の活用・改善
	イ 自己評価の蓄積・考察による指導法の改善
	ウ 個人記録の蓄積・考察による指導法の改善
(3) 学習環境部会	
ア 基本的な学習習慣・生活習慣の育成	
イ 自主的・補足的な学びの場の充実	
ウ 家庭・地域との連携	
エ 算数備品の活用	

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 指導方法研究部会

ア 学びの習慣化や学びの意欲化への取組

(ア) 生活に密着した問題文を扱ったり、キャラクターを登場させたりして問題提示の仕方の工夫を行った。児童は、意欲的に学習に取り組み、集中力も持続しつつある。

(イ) 問題解決的学習を行うために、学習過程を「つかむ」「自力解決する」「練り合う」「習熟する」「振り返る」とパターン化した。自力解決の場では、児童の多様な考え方を引き出すとともに、練り合う過程で、互いの考えのよさを認め合い、算数のよさに気付くことができるようになった。

ア 個に応じた指導体制や指導方法の工夫改善

- (ア) 指導案に、研究主題にせまるための手立て・判定基準・個に応じる手立てを書き込むようにした。指導者が意識して授業に臨み、指導や評価に生かすことができた。
- (イ) 1年生では、T・Tによる指導を行った。教師の効果的な役割分担により、児童のつまずきに早く気付くことができ、機を逃さずその場で支援できるので、入門期の1年生にとって効果的だった。
- (ウ) 2年生以上では少人数指導を行った。学年や単元によって、児童を均等割りのグループにしたり、習熟の程度に応じたグループにしたりと、指導形態を変えた。コース選択にも慣れ、自分に合った環境で学習できるので、意欲的に学習に取り組める児童が増えてきた。また、個に応じた手立てで支援するので、基礎・基本の定着が図られ、分かる喜びを体感させることができた。

イ 数学的に考える力を育てる工夫

- (ア) 算数的活動を取り入れた授業展開を行うことで、児童の興味・関心を喚起し、多様な考え方を引き出すことができた。
- (イ) 文章問題を筋道立てて考えさせるために、問題文の読み取り方・自力解決での支援・練り合いの場での学び合い等において、工夫しながら授業改善を行った。児童は、見通しをもって問題に当たり、順序だてて解くことができつつある。練り合いの場で、友達の考え方に共感したり自分の考えが認められたりすることで得た満足感が、分かる楽しい授業につながっている。

(2) 評価研究部会

ア 単元指導計画・判定基準の作成と活用

- (ア) 毎時間の指導の中で、もっとも適切な場面で評価ができるようにするために、単元指導計画と判定基準を一つにしたものを作成した。担当者の打ち合わせの時間が短縮され、共通理解をもって評価することができた。また、「個に応じた支援・学習過程の改善点」の欄への記入は、その後の指導改善に生かすようにしている。

イ 自己評価の蓄積・考察による指導法の改善

- (ア) 単位時間や単元の終わりに自己評価をさせた。児童の様子をより具体的につかめ、その後の支援や手立てに生かすことができた。児童自身も、次時へのめあてを考えるのに役立てることができた。

ウ 個人記録の蓄積・考察による指導法の改善

- (ア) 理解の程度がいろいろなレベルにある児童3名を抽出して、指導の効果や児童の意識等を細かく継続観察したものを蓄積している。この個人記録の活用で、いろいろなレベルの児童への指導の改善が可能になり、満足感を得られるような指導方法を考えることができた。

(3) 学習環境部会

ア ハッスルタイム・チャレンジタイムの取組や算数すいすいボックスの設置等、自主的な学びの場を設定した。補充的な学習に役立っている。

イ ハッスルルームの入口・教室内の掲示等、環境の充実を図った。算数を楽しんで学習する姿が見えてきた。

ウ 家庭・地域との連携を図るために、フロンティア通信「倫(みち)」の発行や参観授業・保護者会を行っている。学習指導・少人数指導に対する関心が高まり、家庭学習に対して協力が得られつつある。

エ 保護者へのアンケート、児童への意識調査を実施し、願いや実態調査を把握し、職員意識統一を図った。教師の授業改善に対する意識も高まった。

2. 今後の課題

- (1) 少人数指導において、児童がより意欲的に学習に取り組み、学び合いのできるグループ編成を検討したい。また、単元指導計画・判定基準を活用・改善し、より効果的な指導方

法や評価方法を検討していく必要がある。

- (2) 算数のよさを感じ取らせるために、数学的コミュニケーション能力を育成していきたい。
- (3) 発展的・補足的な学習で使用する教材を開発・蓄積をしていく必要がある。
- (4) 算数的活動をより効果的にするために、教材・教具の整理・活用をする必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

1. 単元テストや小テスト、学習帳等を学習状況の形成的評価や総括的評価の参考資料として用いた。
2. 4月と12月に算数の学習について児童に意識調査・保護者にアンケートを行い、その結果を分析・考察し、指導の改善に活用した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 5月と11月に行われた「学力向上フロンティア事業 公開授業・地区協議会」において本校の取組を紹介し、情報交換することにより、さらに研究の方向性を確認することができた。
2. フロンティア通信、学年・学級通信を配布したり、参観授業・保護者会を行ったりして、保護者に本校の研究の取組を紹介し、協力を得ながら取り組めるように努力した。
3. 2月10日に、第3回学力向上フロンティア事業研究発表会を本校において開催した。宇和島管内の小・中学校、八幡浜管内のフロンティア校の参加を得て、本校の取組について発表し、少人数指導や評価についての研究協議を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		